

平成 28 年度文京区障害者地域自立支援協議会 相談支援専門部会検討内容

<実施状況>

- (1) 第 3 回（平成 29 年 2 月 15 日）…文京区障害者地域自立支援協議会相談支援専門部会定例会議の報告・地域コミュニティー、地域資源を活かした障害のある方々の「住まい方」について・今年度相談支援専門部会のまとめ・親会への報告事項について

<内容総括>

1. 文京区障害者地域自立支援協議会相談支援専門部会定例会議の報告

【まとめ】

定例会議とはどのような場なのか、目的は何なのか、ということ改めて共有をしていくことが必要なのではないか。計画相談の質の向上ということまで至っていないが、参加されている方々のスキルアップ、情報共有、ネットワーク作りなどでは大きな成果がある。確かに課題の抽出、提案までは出来ていない。部会からトップダウンで内容を決めるより、ボトムアップ、自主性を保ったやり方を続けることが良いのではないかと。

2. 地域コミュニティー、地域資源を活かした障害のある方々の「住まい方」について

○福祉政策課より『文京すまいるプロジェクト』の制度説明をしてもらい、意見交換をした。

【意見】

障害年金・各種手当が主な収入源である世帯がある中で、文京区の家賃の高さというのが課題にもなる。また区内に公共の住宅数も少ない。地域で支援をしていると、住居のことで困っていることに遭遇する。広大な土地の中に老朽化した家、近隣との関係のまずさがあったり、キーパーソンがいない、親族はいるが相続が発生し複雑になっているなど、事例を示して区にも一緒に考えてもらいたい。住宅の設備に関しても、障害者には住みづらい物件が多い。都心の狭いところでは施設が作れなかった。しかし今は、自分たちが生まれ育ち住み慣れたところで、最後まで住みたいと考える。難しいことだが、それぞれが考え方を変えていかないと何も変わらない。

【まとめ】

来年度も、引き続き住まいについて考えていきたい。新たに立ち上がる居住支援協議会と部会の連携もしていき、既存の住宅施策や個人の住まい方の考えだけでなく、新しい考えも含め考えていきたい。

3. 今年度相談支援専門部会のまとめ・親会への報告事項について

【まとめ】

3つの地域課題（福祉サービスの不足、住まいの問題、本人と家族の高齢化）について報告をする。あわせて、第 2 回の部会で指定特定相談支援事業所連絡会から報告があった課題（計画相談の事業所・相談支援専門員が増えない、計画相談のみでの事業運営は報酬単価が低いため成り立たない、精神障害を対応できる指定一般相談支援事業所が少ない、基本相談についての実情）についても報告をする。

【裏面へ】

平成 28 年度 相談支援専門部会 定例会議内容報告

<実施状況>

第 1 回 2016 年 7 月 6 日(水) Aグループ

テーマ 文京区の障害福祉現場における課題の共有 ～パネルディスカッションを通して～

方法 パワーポイント資料に沿って各パネリストから所属事業所について紹介後、それぞれ「地域とのかかわり」「相談支援って、どう?」「福祉領域における課題」を発表

第 2 回 2016 年 9 月 14 日 (水) Bグループ

テーマ 本人と家族のニーズを大切にしたいケース

方法 グループディスカッション（事例の読み込み後、付箋、シートを使用。グループ内で意見交換の後、グループ発表）

第 3 回 2016 年 12 月 12 日 (月) Cグループ

テーマ 「青年期における復職支援のために」、東京大学医学部附属病院 精神科デイホスピタルの紹介

方法 グループディスカッション（事例発表と東大DHの説明後、付箋、シートを使用。グループ内で意見交換の後、グループ発表）

第 4 回 2017 年 2 月 27 日(月) Dグループ

テーマ グループスーパーヴィジョンを体験して支援のアイディアを探る

方法 事例を通して(グループホーム利用者)の、グループスーパービジョン。ストレング視点を中心としたアセスメントを学ぶ

<定例会での学び>

- 当事者を孤立させないだけでなく、支援者が孤立しないようにすることも大切。
- 関係機関の連携をしていくにもコーディネート役が必要。その役割を計画相談に期待したい。
- 5年後はどんな生活をしていきたいのか、そのためにはどのように支える資源が必要になっていくか想像する。
- 支援者個人のアセスメントの重要性。
- 専門的な教育を受けていない支援員のスキルアップが必要。
- 本人の意思決定の仕方を十分に検討する。
- 医療サービスだけでなく福祉サービスの活用もしていく。
- 本人らしい生活が送れるために、趣味を広げる機会を見つける。
- 福祉サービス、支援者以外に当事者の“友達作り”が重要なのではないか。

<定例会議で表面化した課題>

- 支援者の人材育成、確保、アセスメント能力の向上
- 移動支援の柔軟な利用について(通所・通学・通勤等にも利用できるように)
- 当事者の生活に伴奏してくれる支援者の不足、相談支援事業の不足
- 居場所の不足
- ピア同士の関わりができる環境
- ライフステージ(障害児⇒障害者⇒介護保険)による福祉サービスの移行問題
- 家族支援の充実
- 支援者同士の情報共有・連携強化（医療と福祉、教育と福祉、障害と介護保険など）

【別紙アンケート年間集計参照】